

# 公益財団法人 アジア保健研修所

## 2019年度事業報告書

(第8期 2019年4月1日～2020年3月31日)

はじめに	2
<b>A. 研修事業</b>	
1. 国際研修	2
2. 研修生へのフォローアップ事業	2
1) 英文ニュースレターの発行	
2) リユニオンセミナー（国別の元研修生会合）開催準備	
3. 地域保健推進のための協働事業	3
1) 研修生によるコミュニティ活動への支援	
①フィリピン	
②フィリピン	
③パキスタン	
2) アジア各国間での学び合いの促進	
<b>B. 国内活動</b>	
1. アジア理解のためのプログラム	4
1) オープンハウス	
2) 初めて始めて講座	
3) AHI 講座	
4) アジアの NGO ワーカーと語る集い	
5) スタディツアー	
6) 巡回報告会	
2. 情報および体験機会の提供	5
1) 情報誌『アジアの健康』の発行	
2) 情報誌『アジアの子ども』の発行	
3) インターネットを活用した広報活動	
4) ボランティア・インターンの受け入れ	
3. 他団体との協力	5
1) 他団体への講師派遣	
2) 団体・ネットワークへの加盟	
3) 他団体との協力による政策提言活動	
<b>D. 法人運営</b>	
1. 理事会・評議員会	6
2. 賛助会員募集・募金活動	6

## はじめに

### 2019 年度から 2020 年度へ

アジア各国の社会状況の変化は大きい。開発が進む都市部へ、さらには国外へと労働人口が流れ、農村部では高齢者や子どもが残される。従来多くの NGO が住民のグループ形成をはかり、それを地域での学習および課題解決に向けた住民自身による行動の単位として支援する、というアプローチをとっていた。しかしながら今、地域活動の担い手を誰に期待するか、大きな課題といえる。

地域の将来をどのように描くか。どのような将来を望むか。創立 35 周年にあたり掲げた「次世代育成」とは、そこに住む若者自身が自分の地域の将来を考える主体となることであり、AHI の役割はそれを考えるため、学びの場を提供することであろう。上述の問いはまさに日本社会の課題でもある。今後日本国内の地域活動のリーダーへも積極的に呼びかけて参加を促し、人と人が出会う中から学ぶ機会を広げていきたいと考える。

このように考え、2020 年度の国際研修の応募を開始してまもなく、全世界を新型コロナウイルスの感染が覆いつくした。従来行ってきた参加型の研修スタイルでは、密接を避けがたい。次年度以降の可能性はなお見通せない。

ただこの間、日本および他の国々で起きた状況は、個々人が正しい情報を基に判断し、ふさわしく行動することの重要性であり、一方で誰もが必要ときに障壁なく保健医療にアクセスできる仕組みや資源の確保が必須であることをあらわにした。いずれも AHI が「人びとの手に健康を」と掲げ目指してきたことである。今後も人と人が育ち合うための場をつくり出すことに努めたい。

## A. 研修事業

### 1. 国際研修

期間：2019 年 9 月 1 日～10 月 14 日

場所：アジア保健研修所（AHI）

参加者：保健・開発分野の地域活動に従事する NGO 職員、住民組織のリーダーおよび行政職員をアジア 6 ヶ国から計 13 名（男性 6 名、女性 7 名、カンボジア 2、インド 3、ミャンマー 2、パキスタン 1、スリランカ 2、タイ 3）

「地方分権下での住民参加による保健活動の推進」をテーマに、参加者の活動経験と課題意識に基づく参加型の研修を実施した。各参加者が自分の地域、組織の課題解決に向けた方策を模索し、開発ワーカーとしての自らの役割や姿勢に関して新たな認識を得て、帰国後の活動計画を立案した。

地域住民の健康問題の原因、保健政策の現状と課題、グローバル化の影響など、関連した諸状況を分析的にとらえ、地域住民が主体となって課題の解決を図るために、NGOにはどのような役割が必要かを討論した。特に、住民組織の能力形成、地方行政や他の関係機関との連携の構築や政策提言の方策を考えた。

また日本の市民活動や市民と行政の協働事例から学ぶため、愛知県尾張旭市、名古屋市、長野県阿智村の関係者との意見交換や現場訪問を行った。

広島市訪問では、市民による平和教育や平和活動の実践を知り、住民による地域保健活動が平和づくりにおいて果たし得る役割について考えた。

### 2. 研修生へのフォローアップ事業

#### 1) 英文ニュースレターの発行

元研修生や国内外の関係団体の活動を紹介し、元研修生間の継続的な学びを促す媒体として、各号特集を組み、計 3 回、各 1,000 部発行した。

\*2019年6月 アルマ・アタ宣言から30年 プライマリヘルスケアをめぐる現状と課題

\*2019年12月 公的保健医療などの公共財・公共サービスの民営化の現状・課題

\*2020年2月 多民族・多文化共生、平和構築にむけた草の根の取り組み

## 2) リユニオンセミナー（国・地域別の研修生会合）の開催準備

当事業は、元研修生間の新たな経験交流およびネットワーク構築の機会として実施するものである。元研修生有志による発案を基本とし、企画・実施も彼らが担う。

2020年1月にインドネシアでの開催に向けて数名と協議を行ったが、諸状況から難しいと判断した。一方地理的状況から、近隣国での開催可能性も今後検討することとした。

## 3) その他のフォローアップ

\*元研修生訪問

職員が元研修生の活動地域を訪問し、国際研修後の活動状況等の把握に努めた。2019年4月にカンボジアとインド、6月～7月にモンゴル、10月にフィリピン、2020年1月～2月にインドネシアに出張した。

\*誕生日カード、年末のグリーティングカードを送付した。

\*新たな情報交流を促すツールとして、フェイスブック上で元研修生のグループを作成した。

## 3.地域保健推進のための協働事業

### 1)研修生によるコミュニティ活動への支援

#### ① ヘルシーライフスタイル推進

元研修生有志ANAK-NCとの協働

(フィリピン)

ミンダナオ島北ダバオ州ニューコレリア町で、元研修生グループANAK-NCによる、地域住民の健康増進とそのための環境整備の活動を支援してきた。現在、人的・財的制約も大きく実現可能な事業運営をすべく事業計画の見直しを行っており、それに時間を要している。グループメンバーがボランティアとして活動していることも一因となり、交信が途絶えることもあり、2020年度以降協働関係の見直しを検討する必要性に迫られている。

#### ②保健ボランティア育成と代替医療の推進

元研修生の所属団体 INAM との協働

(フィリピン)

INAM がルソン島中部の二つの町で行う保健ボランティアの育成事業に協力してきた。2019年度にそれまでの保健ボランティア育成研修の経験を基にして、ボランティア向けの活動マニュアルを作成した。それをもって協働事業を終えた。

#### ③ 小規模 NGO の若手スタッフ育成

元研修生所属団体 エイズ啓発協会 AIDS Awareness Society (AAS)との協働 (パキスタン)

元研修生が国際研修参加時に立案した事業を2014年より支援している。国際研修の参加型手法を応用し、パキスタンにおけるNGOの次世代を育成することを目的し、下記のように実施した。活動の持続性を高めるため、過去の参加者に協力を促し、そのうち数人が企画・実施に関わる形で運営された。

期間：2019年4月26日～5月4日

場所：パキスタン東部ラホール市

参加者：16名

#### 2) アジア各国での学び合いの促進

##### ①次世代育成事業の企画立案

当事業は創立35周年記念「アジアの次世代育成

募金」を原資に、2025年までに行うものである。

NGOの若手スタッフおよび地域の若者リーダーを主対象に、下記2つの取り組みを2020年度に行う準備を進めた。

\*パキスタンでの協働事業(2020年4月開催予定)への他国NGOからの参加促進

\*次世代育成をテーマとした2020年度国際研修の開催(2020年8月末～10月開催予定)

## B. 国内活動

### 1. アジア理解のためのプログラム

#### 1) オープンハウス

気軽に参加できる年に一度の恒例のイベントとして、2019年10月14日(祝・月)に、AHIを会場として開催した。企画・運営の中核をボランティアによる実行委員会が担った。6月以降メンバーを募り、25名ほどが月2～4回会合を持ち、準備を進めた。実行委員が当法人の活動への理解を深めるよう、情報や機会の提供に努めた。

当日の来場者は約500名。26の外部団体・グループの参加・出展があり、また約80名のボランティアの協力を得た。

#### 2) 初めて始めて講座

国際協力、あるいはボランティアなどに関心のある新規の人を対象に、当団体の理念や活動を紹介するための講座を毎月1回、第4土曜日に開催した。参加者総数56名。

この講座への参加後、ボランティア活動やプログラムへの参加につながるよう、同講座において参加者同士の交流に努め、また他のプログラムとの連携を図った。

### 3) AHI 講座

AHIを会場に下記のように開催した。

\*2019年7月20日(土)

「2030年未来への旅!SDGsゲーム体験会」ゲームを通して、持続可能な開発目標(SDGs)が生まれた背景や、地球の持続可能性のために一人ひとりが行動することが重要であることへの理解を促した。参加者25名。

上記に加え、下記2つの学習会を開催した。

\*2019年6月8日(土)ドキュメンタリー映画と学習会「薬は誰のものか」参加者17名。

エイズ薬をめぐる特許権について描いた映画を観て、医薬品と貿易のあり方を考えた。

\*2020年3月14日(土)「保健分野における国際的な政策提言活動」参加者は職員を含め15名。日本国内及び国際的な政策提言活動がどのように行われているかについて、長年その活動に携わってきた講師から聞いた。

#### 4) アジアのNGOワーカーと語る集い

日本の一般市民、学生が、アジア各国で地域保健、生活改善活動に携わっている国際研修の参加者から、アジア各地の開発課題や彼らの取り組みを聞き、国際的な課題と自分自身のつながりを考える機会とした。参加者57名。

日時:2019年9月14日(土)

場所:AHI

#### 5) スタディツアー

アジア各地の農村部を訪れ、そこに暮らす人びとへの共感と開発活動への理解を得ることを目的に、スリランカへのスタディツアーを計画し、2020年3月20日～30日に実施予定であった。

しかしながら、新型コロナウイルス感染の世界的な拡大のため中止とした。3月20日には参加予定者が集まり、インターネットで現地の訪問予定

地の人たちと交流をもった。

## 6) 巡回報告会

既支援者が当法人の活動への理解を深めたり、新規の人たちとの接点を得ることをねらいとして、元研修生を講師に 2019 年 11 月 24 日～12 月 9 日計 25 ヶ所で 1500 人以上を対象に報告会を行った。

1995 年の国際研修参加者であるスリランカのフランシス・コスタさんと、彼らが支援している女性グループのリーダーの 2 人から、大規模な開発が行われる中で小規模な農民や漁民が困難を強いられる状況や多民族・多文化社会を背景に、住民が中心となり平和な地域社会をつくるために取り組んでいる様子を聞いた。訪問先は、東京、関西および愛知県内で、大学、キリスト教会および市民グループが受け入れ団体となった。

## 2. 情報および体験機会の提供

### 1) 情報誌『アジアの健康』の発行

支援者への報告、情報提供をねらいとして、計 5 回、各回約 3,500 部を発行した。うち 1 回は簡便な形 (A4 サイズ 1 枚両面) とした。元研修生の帰国後の活動やアジア各地の状況を具体的に伝えること、また紙面での支援者交流をはかるなど、支援者が AHI を身近に、また支援の手ごたえを感じられるように努めた。

### 2) 情報誌『アジアの子ども』の発行

日本の子ども (主対象: 小学校高学年以上) 向けに、現地での地域開発の活動も織り交ぜて、同時代を生きるアジア各地の子どもたちの日常をわかりやすく伝えることをねらいとした。

元研修生の協力により、2019 年 8 月 (キルギス) および 2020 年 2 月 (フィリピン) 各 4,000 部発行した。

## 3) ホームページ運営

ホームページやブログを活用し、活動内容をわかりやすく、タイムリーに更新することに努め、同時に SNS など他の媒体との連携に努めた。

また、オンラインでの単発の寄付にも対応できるようにシステムを変更し、支援のための利便性を高めた。

## 4) ボランティア/インターン受入れ

国際研修の期間を中心に、年間を通じて積極的にボランティアやインターンを受け入れ、NGO 活動に触れる機会を提供した。日常的な事務作業のほか、国際研修の運営等多様な業務をボランティア、インターンが担った。インターンは、大学生、大学院生および社会人の計 8 名 (うち 2 名は留学生)。また名古屋市内の私立高校からの依頼を受け生徒 1 名、日進市内の愛知県立高校の新任教員研修で教員 1 名をボランティアとして受け容れた。

## 3. 他団体との協力

### 1) 他団体への講師派遣

要請に応じて、下記のように職員や関係者を講師として派遣し、アジアの状況を伝えた。

・学校関係 (中学～大学)	14 件
・キリスト教会・諸団体	9 件
・ブース出展・アピール等	12 件
・グループでの来館受け入れ	4 件

上記以外に、下記も行った。

#### \* 「小学校で行う国際理解講座」

日進市内においては市との協働事業として日進市立の小学校計 8 校で実施した。また要請に応じて、近隣市においても計 3 校で実施した。

### 2) ネットワークへの加盟・外部団体への協力

下記の諸団体に加わり、関連分野の活動を進めている。〈 〉内は当該団体における役職。

- ・名古屋 NGO センター〈理事〉
- ・名古屋キリスト教協議会〈書記〉
- ・障害分野 NGO 連絡会〈幹事〉
- ・日比 NGO ネットワーク
- ・日本キリスト教協議会〈常議員〉
- ・カンボジア市民フォーラム〈世話人〉
- ・(特活) 開発教育協会
- ・あじさい会 (日進市内の事業所交流会)
- ・東海市民社会ネットワーク〈幹事〉
- ・社会福祉法人さふらん会〈評議員〉
- ・名古屋 YWCA〈評議員〉

この他、日進市において、職員 1 名が日進市自治推進委員会の委員を務めており、また市民グループ「にしん平和を考える会」及び「次世代の子どもたちの“いのち・くらし・エネルギー”を考える会」の活動に加わっている。

### 3) ネットワーク団体を通じた政策提言活動

加盟団体の一員として、関連分野において関係機関等への政策提言活動を行う。

#### a) 名古屋 NGO センター

東海地域の NGO ネットワークである同センターの加盟団体として、国際協力機構 (JICA) や外務省などへの政策提言活動に関わった。また、「NGO スタッフになりたい人のためのコミュニティカレッジ」などの同センターの事業も担い、国際協力に関心を持つ人材の育成にも協力した。

#### b) カンボジア市民フォーラム

同フォーラムの加盟団体として、カンボジアの開発や保健政策に関して、援助国・国際援助機関に対する提言活動に関わった。今年度も、近年加速するカンボジア政府の市民社会への活動・言論統制に焦点があてられた。

## C. 法人運営

### 1. 理事会・評議員会

理事会を 4 回、評議員会を 2 回開催した。2019 年度末現在、理事 10 名、監事 3 名、評議員 10 名である。開催日と主な議題は下記の通り。

#### \* 理事会

2019 年 6 月 4 日

－2018 年度事業報告案・決算案の件

2020 年 1 月 7 日

－2020 年度国際研修の件

2020 年 2 月 19 日

－会員規程改定の件

－創立 40 周年記念事業の件

2020 年 3 月 6 日

－スリランカスタディツアー実施の件

－2020 年度事業計画案および予算案の件

#### \* 評議員会

2019 年 6 月 25 日

－2018 年度事業報告案、決算案の件

\* 第 16 回評議員会を 2019 年 3 月 24 日に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため、書面決議にて 2020 年度事業計画案、予算案を承認した。

### 2. 賛助会員募集・募金活動

#### 賛助会員現勢 (2020 年 3 月 31 日現在)

賛助会員総数 2,507 名

〈うちひとつかみサポーター 209 名〉

寄付者総数 577 名

\* 下記は、前年度末現在

賛助会員総数 2,595 名

〈うちひとつかみサポーター 201 名〉

寄付者総数 583 名

## ●支援者・資金獲得のための働きかけ

### 1) 長年支援者への感謝の集い

支援者が支援の手ごたえを具体的に感じ、さらに次の世代へ引き継ぐ機会として、昨年に引き続き、オープンハウス（10月14日実施）にあわせ開催した。参加者21名。悪天候のため遠方からの参加は得られなかったが、長年支援してきた団体を身近に感じ、AHIとのつながりを新たにさせていただく機会となった。

### 2) 支援のお願いの送付

新規の支援者を得るために、当年度にボランティア活動やプログラムに参加した人たちにあて、メール配信などを通して関係を継続し、2019年12月に「ひとつかみサポーター」のお願いを約500通送付した。そこからの協力者は4件であった。

また、前年度のボランティア・参加者約200名あてに「クリスマス・お正月募金」のお願いを送付し、6件の協力が得られた。

### 3) 古本・切手・ハガキでの寄付「ギフトリレー」

ブックオフコーポレーション（株）の買取の代金分が寄付されるしくみ（同社が10%を上乗せ）を活用した寄付を随時受け付けた。2019年度末まで受付分の合計金額は、50,525円。

また、未使用・書き損じはがきおよび切手による寄付は、182件 計569,530円であった。

### 4) 「想いを伝える遺言書講座」開催

遺贈への関心の高まり、一定の社会的認知も生まれていることを受け、元職員の協力を得て実施した。2019年度の開催は、2019年5月および11月計2回。各回次週に個別相談会も開催した。のべ23組参加。

## ●会費・寄付金実績

### ■会費収入実績 計12,511,819円

1. 従来の年会費制度による 計9,605,819円
  - a) 新規会費 計165,600円
  - b) 継続会費 計9,440,219円
2. ひとつかみサポーター 計2,906,000円
  - a) 新規 計111,000円
  - b) 継続 計2,795,000円

### ■寄付金収入実績 計30,105,746円

1. クリスマス・お正月募金 14,351,275円  
期間 2019年12月1日～2020年2月29日  
協力件数 1,318件  
(目標 17,000,000円 達成率 84%)
2. 一般寄付 15,754,471円